

森林官からのあたいり

茨城森林管理署 八郷森林事務所 森林官 友部 淳子



筑波山遠景

「サーサーお立会い、御用とお急ぎでない方はゆっくり聞いておいで、見ておいで・・・」は、ご存知「ガマの油売り」の口上の一節です。

口上の中に出てくる筑波山を中心とした国有林が私の管理する八郷森林事務所及び真壁森林事務所の区域です。そうそう、余談ですが、男性コーラスグループが歌う「筑波山麓男性合唱団」の、いろんなカエルの鳴きまねにもガマガエルが出てきます。ちなみに、四六のガマは、ニホンヒキガエル（ガマ）のことで、詳しくは判りませんが、前足と後ろ足の指の形状から四六の語源があるようです。

当森林事務所は、その筑波山（標高877㍎）がある茨城県の南部に位置し、約3,700㍎（八郷・真壁）の国有林を管理しています。筑波山は、八溝山地の南端部にあり、低い山ですが、関東平野に突き出たその姿は、「西の富士、東の筑波」と言われています。

また、良質の御影石が採れる加波山（709㍎）やパラグライダーの愛好者が多く集まる吾国山（518㍎）周辺の山々があり、頂上の男体山や筑波山神社本殿がある女体山からは、関東平野の一部である新治・稲敷台地や水郷平野が広がっています。



複層林を空から

森林の概況は、人工林率が約60%で、スギ、ヒノキが多く植栽されています。筑波山の東側には、景観に配慮した森林施業として「筑波山複層林試験地」が約35㍎設定され、森林技術センターがその調査・研究を行っています。

また、筑波山北側の国有林内には、以前、本紙上で紹介しましたが、昭和9年に初めて全国的な植樹行事が行われた「植樹祭発祥の地」があります。

東京近郊からアクセスが良いことから、観光や登山に多く訪れる筑波山系の山々には、登山道が多いので、観光シーズンは、山火事防止などのパトロールが多く必要となります。登山する方の中には、歩きながらの喫煙者もいますので、山火事用心や植物の盗採防止のための呼びかけなどを行っており、年々、登山者のマナーも良くなっていると感じます。

今は、森林官1人であり、広範囲のパトロールは大変で責任の重さを感じます。

全国的にも有名なこの筑波山周辺の国有林は国民の財産です。大切に管理していきたいと考えています。



奇岩のひとつ(ガマ石)



植樹祭発祥の地と記念碑